

2026年7月12日(日)

日本基督教団 大宮教会

大宮教会ビジョン

「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
(マタイによる福音書 28:19-20)

聖霊降臨節第8主日

朝第1礼拝 9:00~10:00

朝第2礼拝 10:30~11:45

＜神の招き＞

前 奏 ①我に來たれとみ子は語りたもう C.バツハ
②詩編24(3) ノールトー

招きの詞 詩編100編1~5節

交読詩編 119:129~136

讚美歌 10

＜神の言葉＞

聖 書 創世記14:17~20
(旧約 聖書協会共同訳 17頁)
ヘブライ人への手紙7:1~19
(新約 聖書協会共同訳 398頁)

祈 禱

讚美歌 57

説 教 「神に近づく希望」 熊江秀一牧師

祈 禱

黙 想

讚美歌 451

＜神への応答＞

使徒信條

献 金

主の祈り

宣教報告② 教団部落解放祈りの日リタニー

頌 栄 28

派遣と祝福

後 奏 ①主はわが牧者 バツヘルベル
②あなたによりたのみます バツハ

宣教報告①

夕 礼 拝 18:00~19:00

＜神の招き＞

前 奏 義しき神 恵みの泉(1) バツハ

招きの詞 詩編100編1~5節

交読詩編 119:129~136

讚美歌 14

＜神の言葉＞

聖 書 ダニエル書4:31~36
(旧約 聖書協会共同訳 1368頁)
ルカによる福音書8:26~39
(新約 聖書協会共同訳 118頁)

祈 禱

讚美歌 157

説 教 「正気を取り戻す」

佐藤潤伝道師

祈 禱

黙 想

讚美歌 461

＜神への応答＞

使徒信條

献 金

主の祈り

宣教報告

頌 栄 26

派遣と祝福

後 奏 義しき神 恵みの泉(3) バツハ

今週の御言葉

「あなたこそ永遠にメルキゼデクに連なる祭司である。」こうして、一方では、前の戒めが弱く無益なために廃止されました。一律法は何一つ完全なものにできなかったからです。しかし、他方では、もっと優れた希望がもたらされました。私たちは、この希望によって神に近づくのです。

(ヘブライ人への手紙7:17b~19)

次週の礼拝(7月19日)

① 9:00、② 10:30
説教「主イエスは永遠に生きている」
熊江秀一牧師
詩編110:1~7、
ヘブライ人への手紙7:20~28
交読詩編18:26~35
讚美歌11、58、518、28

夕 18:00
説教「恐れるな、ただ信じなさい」
佐藤潤伝道師
詩編107:23~32、
ルカによる福音書8:40~56
交読詩編18:26~35
讚美歌120、440、513、26

■今週の祈禱課題■ 独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1. キリストの体なる教会が豊かに形成される為に
2. 東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に
3. 各部（青年・婦人・壮年・新しい会）例会の為に
4. 関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に
5. 教団部落解放祈りの日の為に
6. 日本基督教団の伝道推進の為に
7. イスラエルとパレスチナ、ウクライナ、イラン、世界の平和の為に
8. 病気の兄姉の為に

*関東教区お祈りカレンダー 桐生教会 桐生東部教会 泉町教会

◇先週の説教より「神の確かな約束」 ヘブライ人への手紙6章13～20節、創世記22章15～18節 熊江秀一牧師

教会のシンボルは十字架である。一方、迫害の中で隠されたシンボルとして魚（イクスース）も刻まれた。もう一つ隠されたシンボルがある。錨である。この手紙は、神の「希望」を「魂のための安全で確かな錨」と告げる。

この背景はアブラハム物語である。アブラハムは故郷を離れ、神の示した地に旅に出た。それは日常生活を離れて、神の国を目指して信仰の道を歩む私たちの姿である。

この時、神はアブラハムが希望に生きるために「二つの不変の事柄」で励ました。それは神の「約束」と「誓い」である。神はご自身にかけて誓い、約束された。そして神は今や、このアブラハムへの約束と誓いを「受け継ぐ人々」である私たちにして下さった。神の約束と誓いによる希望こそが、私たちの魂のための錨となる。

そして私たちは心に留めたい。この神の約束と誓いは、キリストによって私たちに実現したことを。

キリストこそ私たちの希望であり、錨である。そしてこのお方は「私たちのために先駆者としてそこ（垂れ幕の内側）へと入り、永遠にメルキデゼクに連なる大祭司」となられた。

大祭司は垂れ幕の内側に入り、犠牲を捧げて罪の贖いをした。しかしキリストは永遠の大祭司となって天の聖所の内側に入り、ご自分を罪の贖いの犠牲として捧げた。私たちを永遠に執り成し、救いの「先駆者」となられた。今やキリストという錨によって私たちは救いを得た。

アブラハムの「忍耐」と私たちの「忍耐」（12節）は違う。アブラハムの忍耐は神が誓った約束を待つ忍耐。私たちの忍耐とは、それがキリストによって実現したことを知っての忍耐である。

どんな時も大祭司キリストの救いと執り成しの中で忍耐し、キリストの希望という錨を携えて、神の国を目指して歩もう。

*礼拝中、起立が無理な方は、着席のままどうぞ。*は祈禱当番の方。*①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。